

第3 財務の概要

1 資金収支計算書について

翌年度繰越支払資金 = 貸借対照表 資産の部・流動資産・現金預金
2,597百万円

〔予算との比較 (R4 予算－R4 決算) △375百万円〕

〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) △264百万円〕

※参考 R4 決算－H30 決算 △1,704百万円)

2 事業活動収支計算書について

(1) 事業活動収入計

3,369百万円 … ①

〔予算との比較 (R4 予算－R4 決算) 16百万円〕

〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) △166百万円〕

(2) 事業活動支出計

3,332百万円 … ②

〔予算との比較 (R4 予算－R4 決算) 15百万円〕

〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) 78百万円〕

(3) 基本金組入前当年度収支差額 (= ① － ②)

37百万円 … ③

〔予算との比較 (R4 予算－R4 決算) 1百万円〕

〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) △243百万円〕

(4) 当年度収支差額 (= ③ ＋ 基本金組入額合計)

20百万円

〔予算との差異 (R4 予算－R4 決算) △21百万円〕

〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) 426百万円〕

(5) 事業活動収支差額比率 (= ③ ／ ①)

1.1%

(令和3年度決算 7.9%)

(令和3年度全国私大平均 6.4%)

【比率の解説】

（日本私立学校振興・共済事業団発行令和元年度版『日本の私学財政（大学・短期大学編）』による。
以下、同じ。）

事業活動収支差額比率は、事業活動収入に対する基本金組入前当年度の収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものとされている。

この比率がマイナスの場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができなかったことを示し、基本金組入前の段階で既に支出超過の状況にあることを意味する。

マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障を来す可能性が否めない。

3 当年度特有の事業等

- (1) 図書館屋上防水改修工事
教・修繕費 6, 0 1 3 千円
- (2) 砂込体育館アリーナ床研磨塗装工事
教・修繕費 3, 9 6 0 千円
- (3) 旧松園幼稚園園児スクールバス代
教・業務委託費 4, 4 7 3 千円
- (4) 学校法人盛岡大学D X推進費用
管・業務委託費 1, 3 2 0 千円
- (5) 砂込キャンパスエアコン工事
建物支出 1 2, 6 5 0 千円
- (6) 高校エアコン工事
建物支出 8, 1 4 0 千円
- (7) 大学教室等プロジェクター更新
教育研究用機器備品 1 5, 3 0 1 千円
- (8) 大学教務システムカスタマイズ費用
ソフトウェア 1, 6 4 7 千円
- (9) 文学部理科室用什器代
消耗品費 1, 2 2 3 千円
- (10) 砂込校舎ネットワーク光ケーブル交換代
教・修繕費 6, 9 3 0 千円

(11) 大学・短大インタラクティブ動画製作費
管・広告費 2, 0 0 6 千円

(12) 盛岡大学附属高等学校奨学生奨学費
教・奨学費 2 4, 1 6 3 千円 (前年度比 1 2, 8 1 5 千円増加)
※奨学生規程改正による

(13) 高校ネットワーク及びタブレット端末保守費用
教・業務委託費 2, 1 2 0 千円

(14) 高校視聴覚機器整備事業プロジェクター費用
教育研究用機器備品 7, 0 9 0 千円

(15) 資産運用関係
収入 受取利息・配当金 3 8, 4 7 1 千円 (前年度比 9 9 1 千円増加)

支出 有価証券購入 3 2 3, 3 0 2 千円 (前年度比 △ 5 6 8, 6 3 4 千円)
長期性預金 4 0 0, 0 0 0 千円 (前年度比 1 0 0, 0 0 0 千円増加)

(16) 高等教育の修学支援新制度関係
収入 国庫補助金収入 1 5 5, 8 6 1 千円 (前年度比 △ 4, 9 7 0 千円)

支出 教・奨学費支出 1 5 5, 4 2 8 千円 (前年度比 △ 2, 7 3 6 千円)

※対象者数 大 学 … 2 4 9 名 (1 4. 5 %) (前年度比 12 名減少・△0. 3%)
短大部 … 3 1 名 (1 6. 9 %) (前年度比 7 名減少・△4. 6%)

4 財務比率

科 目 等	令和4年度	令和3年度	令和3年度 全国私大平均
学生生徒等納付金	百万円 2,199	百万円 2,216	—
学生生徒等納付金比率 (学納金／経常収入)	% 65.6	% 65.6	% 73.6
人件費	百万円 1,969	百万円 1,897	—
人件費比率 (人件費／経常収入)	% 58.8	% 56.2	% 51.3
教育研究経費	百万円 988	百万円 989	—
教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	% 29.5	% 29.3	% 34.3
管理経費	百万円 366	百万円 356	—
管理経費比率 (管理経費／経常収入)	% 10.9	% 10.5	% 8.3

* 「経常収入」 ＝ 教育活動収入計 ＋ 教育活動外収入計

5 部門別収支

(1) 盛岡大学 文学部

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	1,983,099	1,996,738	△13,639
事業活動支出計	1,706,753	1,643,363	63,390
基本金組入前当年度収支差額	276,346	353,375	△77,029
基本金組入額合計	13,266	△34,131	47,397
当年度収支差額	289,612	319,244	△29,632

(2) 盛岡大学 栄養科学部

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	434,330	453,042	△18,712
事業活動支出計	476,067	426,425	49,642
基本金組入前当年度収支差額	△41,737	26,617	△68,354
基本金組入額合計	2,982	△8,429	11,411
当年度収支差額	△38,755	18,188	△56,943

(3) 盛岡大学計

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	2,417,429	2,449,780	△32,351
事業活動支出計	2,182,819	2,069,788	113,031
基本金組入前当年度収支差額	234,610	379,992	△145,382
基本金組入額合計	16,248	△42,559	58,807
当年度収支差額	250,858	337,433	△86,575

(4) 盛岡大学短期大学部

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	290,438	294,540	△4,102
事業活動支出計	331,497	343,199	△11,702
基本金組入前当年度収支差額	△41,059	△48,659	7,600
基本金組入額合計	3,554	△5,132	8,686
当年度収支差額	△37,505	△53,791	16,286

(5) 盛岡大学附属高等学校

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	491,434	480,691	10,743
事業活動支出計	510,199	522,398	△12,199
基本金組入前当年度収支差額	△18,765	△41,707	22,942
基本金組入額合計	△19,938	△18,225	△1,713
当年度収支差額	△38,703	△59,932	21,229

(6) 盛岡大学附属幼稚園

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	162,844	151,833	11,011
事業活動支出計	227,967	237,975	△10,008
基本金組入前当年度収支差額	△65,123	△86,142	21,019
基本金組入額合計	△17,188	126,654	△143,842
当年度収支差額	△82,311	40,512	△122,823

※令和3年度は、厨川幼稚園と松園幼稚園の合計

(7) 学校法人

(千円)

科 目	令和4年度	令和3年度	差 異
事業活動収入計	7,252	158,302	△151,050
事業活動支出計	79,619	81,065	△1,446
基本金組入前当年度収支差額	△72,367	77,237	△149,604
基本金組入額合計	500	△747,023	747,523
当年度収支差額	△71,867	△669,786	597,919

6 基本金組入れ状況

(1) 第1号基本金

(千円)

部 門	主な固定資産	当期組入高
学校法人	美術品廃棄処分等	△500
大学 文学部	砂込校舎教室エアコン設置工事、砂込校舎光ケーブル更新工事、砂込校舎学生トイレウォシュレット取付工事、大学教室プロジェクター購入、図書館空気調和設備他廃棄など	△15,893
大学 栄養科学部		
短期大学部	短大部教室エアコン設置工事、図書館空気調和設備他廃棄など	△2,548
附属高校	附属高校演習室他エアコン設置工事、附属高校教室視聴覚機器購入など	17,286
附属幼稚園	外構工事、スクールバスボディエース購入	17,188
合 計		15,533

(2) 第2号基本金

(千円)

	当期組入高	当期末残高
砂込校舎改築・改装引当特定資産	25,805	335,173
盛岡大学附属高校施設設備整備拡充引当特定資産	10,000	5,282
盛岡大学学生会館施設設備整備拡充引当特定資産	2,000	22,000
計	37,805	362,455

7 貸借対照表及び財務比率について

- (1) 資産の部合計 15,960百万円 … ①
〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) 50百万円〕
- (2) 負債の部合計 1,812百万円 … ②
〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) 13百万円〕
- (3) 純資産の部合計 (＝ ① △ ②) **14,148百万円** ＝ 正味財産 … ③
〔前年度決算との比較 (R4 決算－R3 決算) 37百万円〕

… 令和4年度末資産総額の変更登記

- (4) 純資産構成比率 (＝ ③ / ② × ③)
88.6%
(令和3年度決算 88.7%)
(令和3年度全国私大平均 88.0%)

【比率の解説】

純資産構成比率は、純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で最も概括的で重要な指標である。

この比率が高い場合は、自己財源が充実していることを示し、財政的には安定していると評価できる。逆に50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。

- (5) 流動比率 (＝ 流動資産 / 流動負債)
835.5%
(令和3年度決算 858.8%)
(令和3年度全国私大平均 262.9%)

【比率の解説】

流動比率は、流動負債に対する流動資産の割合である。

一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。

一般に金融機関等では、この比率が200%以上であれば優良とみなしている。100%を下回っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。

(6) 積立率 (= 運用資産 / 要積立額)

79.5%

(令和3年度決算 80.2%)

(令和3年度全国私大平均 78.4%)

＊「運用資産」

= 特定資産＋有価証券（固定資産）＋有価証券（流動資産）＋現金預金

＊「要積立額」

= 減価償却累計額＋退職金給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

【比率の解説】

積立率は、学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要な運用資産の保有状況を表す。

この比率では、長期的に必要となる資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点を当てている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の使途の指定状況が様でないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。

そのため算定式の分子・分母に使途の異なる要素が混在することになるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。

一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合には、その分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。